

令和4年度水稻栽培講習会資料

〈適切な栽培管理により安全安心で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

JA東とくしま 農業振興対策部

【早期】

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月																				
生育ステージ <small>コシヒカリ 4/10植え 付け事例</small>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>有効分げつ終期 無効分げつ終期 幼穂形成期 (出穂25日前) 減数分裂期 (出穂15日前) 穂ばらみ期 (出穂7日前) 出穂 (7月9日頃)</p> <p>PK追肥 5/31頃 穂肥 6/24頃 出穂15日前</p> <p>管理のポイント(その1) 管理のポイント(その2)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>乳熟期 登熟期 収穫 (8月14日頃)</p> <p>斑点米カメムシ集中被害期 (出穂直後～乳熟期後期)</p> <p>収穫後の耕うん 2回目耕うん (深耕) 3回目耕うん (土壌改良剤投入の時期)</p> <p>管理のポイント(その3)</p> </div> </div>																											
	<p>【参考】品種特性表 (天候によりかわることもある)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>田植期</th> <th>幼穂形成期</th> <th>出穂期</th> <th>成熟期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">コシヒカリ</td> <td>4月10日</td> <td>6月15日</td> <td>7月9日</td> <td>8月14日</td> </tr> <tr> <td>4月20日</td> <td>6月19日</td> <td>7月13日</td> <td>8月18日</td> </tr> <tr> <td>5月1日</td> <td>6月24日</td> <td>7月18日</td> <td>8月23日</td> </tr> </tbody> </table>								品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	コシヒカリ	4月10日	6月15日	7月9日	8月14日	4月20日	6月19日	7月13日	8月18日	5月1日	6月24日	7月18日	8月23日		
品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期																								
コシヒカリ	4月10日	6月15日	7月9日	8月14日																								
	4月20日	6月19日	7月13日	8月18日																								
	5月1日	6月24日	7月18日	8月23日																								
水管理	<p>※この時期は水をきらさないこと</p> <p>1) 中干し後は、間断灌水を基本とする。 2) 特に、穂ばらみ期から穂ぞろい期までは、水を切らさないよう注意する。 3) 穂ぞろい期以降も、間断灌水とする。</p> <p>落水時期は収穫作業にさしつかえない限り遅らせる。 ※登熟期の水分不足は未熟粒の増加や収量、品質の低下を招く。</p>																											
管理のポイント	<p>◎幼穂の大きさと穂肥の施用時期(コシヒカリ)</p> <p>第2葉伸長 止葉抽出 止葉伸長 穂ばらみ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>管理のポイント(その1)</p> <p>PK(中間)追肥の施用 (1) 出穂40日前に施用する。 根の発育を促進し、茎葉を硬くし乳白未熟等の軽減を図り登熟を向上させる目的で行う。</p> <p>施用例) 一発肥施用田 BBPK2号 (20~40kg/10a) 元肥+穂肥体系田 苦土重焼リン (20~40kg/10a)</p> </div> <div style="width: 35%;"> <p>管理のポイント(その2)</p> <p>穂肥の施用 (1) 元肥一発肥料施用田では基本的には必要ない。 (なお、天候により穂肥が必要となる場合がある。※要相談)</p> <p>(2) 穂肥時期は、コシヒカリでは出穂の15日前(幼穂長3cm)、キヌヒカリは出穂の21日前(幼穂長0.5cm)頃に行う。 施用例) BBみのり10~15kg/10a BBNKC52号10~15kg/10a おてがるくんNK10~15kg/10a</p> <p>※留意点 ①過剰な施用は食味を悪くするため、施用量に注意する。 ②カラスケールによる施肥診断 葉色は太陽を背にし、3m離れた位置から測定する。</p> <p>過繁茂(倒伏の恐れがある)の場合 (1) 出穂前10日~2日にピピフルフロアブルを茎葉散布する。 (2) ロミカ粒剤2~3kg/10a(出穂25日~10日前まで)湛水散布 ※ロミカ粒剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>管理のポイント(その3)</p> <p>収穫の適期 (1) 籾の80%が黄化したときが適期。 (2) 出穂期(穂揃い期)をよく観察し、刈り遅れによる品質低下がないように、十分留意する。</p> </div> </div> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <caption>BBみのり施用の場合(kg/10アール)</caption> <thead> <tr> <th>葉色</th> <th>穂肥の要否</th> <th>コシヒカリ</th> <th>キヌヒカリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.5以下</td> <td>極めて必要</td> <td>15kg</td> <td>20kg</td> </tr> <tr> <td>3.5~4.0</td> <td>かなり必要</td> <td>10kg</td> <td>15kg</td> </tr> <tr> <td>4.0~4.5</td> <td>必要</td> <td>5kg</td> <td>10kg</td> </tr> <tr> <td>4.5~5.0</td> <td>ほとんど必要なし</td> <td>0kg</td> <td>5kg</td> </tr> </tbody> </table>								葉色	穂肥の要否	コシヒカリ	キヌヒカリ	3.5以下	極めて必要	15kg	20kg	3.5~4.0	かなり必要	10kg	15kg	4.0~4.5	必要	5kg	10kg	4.5~5.0	ほとんど必要なし	0kg	5kg
葉色	穂肥の要否	コシヒカリ	キヌヒカリ																									
3.5以下	極めて必要	15kg	20kg																									
3.5~4.0	かなり必要	10kg	15kg																									
4.0~4.5	必要	5kg	10kg																									
4.5~5.0	ほとんど必要なし	0kg	5kg																									

病 害 虫	発生 時期	病害	葉いもち・紋枯	穂いもち・もみ枯細菌			
	害虫		イネクロカメムシ	斑点米カメムシ・ウンカ・イネツトムシ ツマグロヨコバイ・コブノメイガ			
	月		6月	7月	8月		
	基 幹 防 除		<p>リンバー粒剤 3~4kg/10a (収穫前30日まで2回以内) ※適期は出穂30日前~出穂期</p> <p>いもち病発生圃場では・・・ コラトップ粒剤5 3~4kg/10a</p>	<p>キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) ※出穂10日前~出穂期にかけて散布適期</p>	<p>キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) ※出穂10日前~出穂期にかけて散布適期</p> <p>※2回目する場合</p>	<p>☆収穫後は耕うんを！☆</p> <p>① 稲ワラは、次年度の栽培に必要な貴重な有機物資材です。腐殖を促すことと、雨による流出を防ぐために、稲刈後の早期に耕うんを行いましょ。</p> <p>② 作業速度は遅く、ロータリーの回転を速くすることで、難敵のジャンボタニシを破砕できます。 (機械に抵抗をかけすぎないこと)</p>	
防 除	補 完 防 除	<p>○本田中後期</p> <ul style="list-style-type: none"> いもち病 オリゼメート粒剤 3~4kg/10a (初発10日前~初発時、2回以内) ビームソル 1,000倍 (収穫7日前まで、3回以内) 紋枯病 バリダシン液剤5 1,000倍 	 <p>イネクロカメムシ (体長約10mm)</p>	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類・コブノメイガ・ウンカ類 トレボン乳剤 1,000倍 (収穫14日前まで、3回以内) 稲こうじ病・いもち病 ブラシンフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで、2回以内) ※稲こうじ病に対する薬剤散布の適期は出穂前8~18日 	 <p>トゲシラホシカメムシ (体長5~7mm)</p>	 <p>ホソハリカメムシ (体長9~11mm)</p>	 <p>クモヘリカメムシ (体長約16mm)</p>
雑 草 防 除	○後期除草	<ul style="list-style-type: none"> イネ科以外の雑草を防除する場合、幼穂形成期までとする。 粒状水中MCP 3kg/10a (湛水散布) ※平均気温20℃以上 	<p>【ワンポイント】カメムシ類対策の草刈り</p> <p>出穂10~15日前までに水田周辺の畦畔や堤防の雑草の刈り取りを行う。刈り取った雑草は放置するとカメムシ類のすみかとなるので、集めて処分する。 (出穂直前の刈り取りはカメムシ類を水田に移動させてしまうので注意)</p>	<p>【ワンポイント】キシュウスズメノヒエ (よばい草) 対策</p> <p>稲刈り後にラウンドアップマックスロード50倍を発生している場所に散布する。 (または、デゾレートA (水溶剤) または、デゾレートAZ粒剤)</p>			
備 考	いもち病	葉いもち病は窒素過多で軟弱徒長気味の成長をし、日照不足で25℃~26℃の温度が発生の好条件。					
	紋枯病	窒素過多や密植または過繁茂となり高温(30℃~32℃)で多湿の場合に発生が多い。					
	カメムシ類	被害が多い発生田では必ず防除する。検査時に、着色粒(斑点米)が、中型カルトンに2粒以上混入していると格落ちする。					
◎JA東とくしまでは、昨年以上の買い取り販売ができるよう努めてまいりますので、1袋でも多くの出荷をお願いします。							
◎出荷される米に関しては、生産履歴の提出は必須となりますのでお願いします。							

農薬散布の飛散に注意